

2. 目録作成について（アートドキュメンテーションの見地から）

木村定三コレクションの目録作成の流れと諸作業について

池田 素子

1. はじめに

木村定三コレクションの目録作成は、①木村邸からの搬出作業の際に原簿を作成し、②原簿をもとに各種調査研究（基礎調査・撮影、館外の各専門分野研究者に依頼した学術調査・研究、館内における調査・研究）を行い、③各種調査研究の結果として集められた情報を集約して目録に適した形に整理・整形するという過程で行われた。作品数が多く、すべての作品について調査を完了するまでにはかなりの時間がかかり、調査の結果として蓄積される資料と情報の量は膨大であった。現在も調査・研究は継続中である。

木村定三コレクションに含まれる作品の一点一点が、国内外にある他の作品や情報と結びつき、幅広く活用される可能性を考えると、作品に関する資料と情報の収集・整理に基づいた目録の作成は、コレクションを受入れた美術館が果たすべき責務だろう。

そのような意味での反省や考察も含め、木村定三コレクションの目録作成の過程や諸作業について報告する。

2. 目録作成のための原簿

木村邸における搬出作業では、作品は木箱等から出して一点ずつ確認し、作業順に番号を付して、作品に付属する情報を記録、デジタルカメラで撮影した。作品に付属する情報とは、木村定三氏によって記入された箱ラベルや、画廊・画商による作品票、箱書き、また極書などに記載されている作者・作品名や制作年代、来歴などで、判断できる範囲で材質技法も記録された。

すべての搬出入作業を終えた段階で、これらはデータとして一つの表に入力され、作業日順、作業番号順に並べて、通番がつけられた。これが目録作成のための原簿である。また、原簿には作者名、材質技法や、制作年代の情報をもとに分類した分野別表も付けられた。

原簿に記されている作品情報は、木村定三コレクションの中で個々の作品を特定するには十分な資料である。また、分野別表は、最終的に作成される目録がある程度想定した形式となっており、基礎調査、撮影、学術調査、展示計画などに効果的に活用された。

3. 各種調査・撮影作業の進行順序

木村定三コレクションには、多くの熊谷守一作品や、江戸時代の代表的な作家による絵画作品が含まれており、寄贈受入後、それら代表的な作品群について展示計画が立てられた。現在までに、木村定三コレクションを活用して「熊谷守一展」、「江戸絵画展」、「茶陶展」（愛知県陶磁資料館で開催）が順に企画、開催されてきた。作品の各種調査や撮影は、これら3つの展示会の展示計画を優先して進められた。現時点では展示計画のない作品についても、これらの展示会準備の合間や、展示会終了後に作業を行っている。

具体的な展示計画があることによって、関連する作品の情報がより効率的に集められた。また展示会図録に掲載された作品情報は、そのまま目録の一部として転用することができた。

4. 各種調査研究

調査は、具体的には、作品ごとに作品カードを作り、そのカードの各欄に作品の情報を記入していく作業である。愛知県美術館では、通常の所蔵品管理に、平面用（絵画・素描・版画）と立体用（彫刻）の2種類の作品カードを使い分けている。木村定三コレクションの管理には、これら既存の作品カードを絵画（洋画）・水彩素描・版画用 **資料1** と彫刻・工芸・考古資料用 **資料2** に使用した。また、新規に絵画（日本画等）・書跡用 **資料3** に作品カードを作成した。愛知県美術館の所蔵作品は、これまで20世紀以降の作品が中心であったのに対し、木村定三コレクションには江戸時代以前の絵画・書跡が多く含まれ、落款印章や箱書きの記録が、重要な作品情報となるためである。計3種類の作品カードを使用して調査研究を行った。

調査のうち最初に行われる基礎調査では、採寸や材質技法の特定、落款印章および箱書きの転記などが中心となった。基礎調査の終了した作品に対し順次撮影が行われた。作品は約3000件あり、一回の調査や撮影作業でかなりの作品数を処理していたため、作業中に混乱が生じることがあった。そこで、調査や撮影によって得られる資料（作品カード、撮影フィルムなど）を整理する際には、単に資料に記入されている通番で処理するのではなく、目録原簿や搬出作業日の記録、搬出時の画像等で照合した上で整理するよう心がけた。

また、基礎調査の時点では、作者・作品名等が不明で作品カードに記入できないことや、学術調査や研究の結果として作者・作品名等が変更されていく可能性を考慮して、目録原簿の情報を印刷したラベルを作品カードの裏面に貼付けてから、基礎調査を行った。あらかじめラベルを貼った作品カードを用意しておくことで、調査の進行状況もわかりやすかった。

基礎調査に続く学術調査では、作品の真正性の評価や作者、作品名、制作年代などが同定・特定された。基本的には、分野ごとに複数の研究者に調査を依頼して、調査結果を館内で検討している。作品によっては学術調査を繰り返し行ってきた。

各種調査および撮影を通して、作品カード、撮影フィルム、学術調査の報告書、調査研究資料など、多くの資料が集められた。順次蓄積されていくこれらの資料は、作品一件ごとにフォルダにまとめられキャビネットに収納した。展示計画や調査作業での資料の利用を考えて、作品フォルダは通番順ではなく、企画展関係、密教法具、仏像・神像、考古、工芸品（茶道具類）、近現代作家のように分野や時代によって配列した。この配列は学術調査の進行や資料の利用頻度にあわせて度々変更した。

5. 作品情報の集約と整理・整形

このように各種調査・撮影を通して集められた情報は、作品ごとに集約され、作品情報として目録に適した形に整理・整形される。個人の私的な収集においては、コレクションの中で作品を特定しやすい呼称を使用することや、個人の利用目的によって作品を分類する方が、収集者は作品を管理しやすいが、美術館の所蔵品として公的に活用されるためには、各分野の専門性を基準に、作品情報に統一性・共通性をもたせ、作品情報および作品自体が館内外において幅広く活用されることに備える必要がある。

作品情報のうち作者名について言えば、作者が複数の名前や雅号・齋号を有することや、時代によって変名することがある。また、世襲による同名の別人が複数存在する場合も多い。そのため、目録に記載される作家名は、異名同人は表記を統一し、同名異人のうち特定できたものについては表記を区別した。

作品情報のうち作品名は、分野や時代によってその意義が異なっている。木村定三コレクションは地域や時代も広範囲にわたり、また材質技法も多種多様であるため、作品の制作年代や形態に応じて作品名を検討する必要があった。江戸時代以前の作品や、伝統的な形式に基づいて制作された近現代の作品では、作品名は表現された図像、画題や書題、形態を的確に説明するものであるため、いくつかの典拠を用いてそれらを解釈してから作品名を決定する必要があった。また、茶道具として使用されてきた陶磁器や工芸品は、制作当初の使用目的を判別する必要もある。一方、近現代においては、作者の制作意図に基づいて作品名が付けられるため、作品や作品周辺への作者自身による記銘を優先し、当該作家の作品総目録およびそれに順ずる展覧会図録などの文献を確認して作品名とした。

情報を整理・整形する上で、典拠となったものは、各国立博物館・美術館をはじめとする他館の所蔵品目録およびデータベースや『国宝・重要文化財大全』（文化庁監修、毎日新聞社）などである。図像抄や各種美術全集、展覧会図録など、様々な文献を参考文献として使用した。

整理・整形された作品情報がデータとして入力された。

6. 目録作成の作業を通して

木村定三コレクションの目録作成は、各種調査研究、調査研究結果の検討と情報の整理、展示計画が同時進行する中で進められた。これらの活動の間には密接な関係性があり、本来なら、それぞれの活動の中で更新された情報が、同時にその他の活動にも反映されるように備えることが、アートドキュメンテーションに求められる機能である。しかし、実際の作業では、処理する作品数がありにも多いため、情報が更新されるスピードに、情報を整理するスピードが追いつけなくなり、結果として、一方の活動で得られた情報の更新が他方の活動に生かされず、更新されないままの情報が利用されたり、作業が重複したりということが起きている。このような混乱の中で、目録作成過程における情報の更新への対応の難しさ、複雑さを実感している。

また、頻繁に情報が更新される状況の中、情報を管理する上で基軸となったものは、目録の原簿であり、受入時の作品情報であった。目録の作成に向けて複数の作業が同時進行している場合、共通の情報として原簿が使用されることによって、新しい情報はやり取りできるようになる。受入時情報の整理、原簿の存在の重要性を感じている。

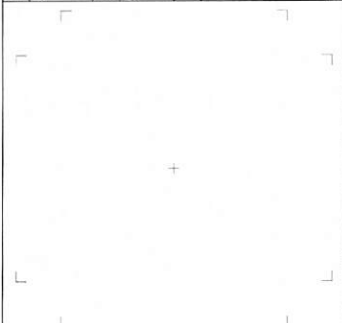
7. おわりに

以上のような過程を経て目録が作成され、近く公開されようとしているが、すべての作品について十分な調査や検討がなされたわけではない。今後も引き続き作品の調査を継続し、目録を随時更新する必要がある。

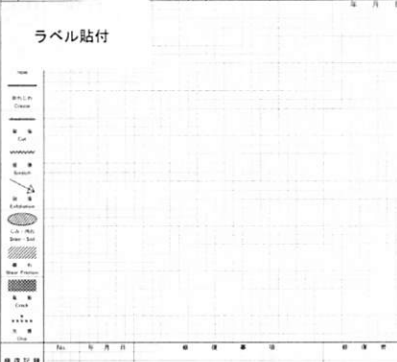
これまでの目録作成作業を通して、作品とともに寄贈された木村定三氏の蔵書に、コレクションに関する多くの情報が含まれていることがわかってきている。今後は、これらの文献をより詳細に検証して、情報を抽出していきたい。また、木村定三氏が作品一点一点に付していた自筆のラベルや印などの情報を目録にどのように反映するか、ということも課題である。

作品の基礎調査やデータの入力では、名古屋大学大学院美学美術史研究室在籍の学生に協力して頂きました。ありがとうございました。

資料1 作品カード(絵画〈洋画〉・水彩素描・版画用)


豊知県美術館所蔵作品カード				木村定三コレクション			
作品名	作者	制作年	制作地	寸法	材質	技法	備考
登録番号	品名	名	名	縦	横	材	注
鑑別番号	年()月()日	制作年	制作地	縦	横	材	注
制作年	制作地	出品年	出品地	マニフェスト等の添付			
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		

(表)

ラベル貼付		年月日		年月日																							
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex;"> <div style="flex: 1; padding: 5px;">  </div> <div style="flex: 2; border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <table border="1"> <tr> <th>年月日</th> <th>年月日</th> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> </div> </div>						年月日	年月日																				
						年月日	年月日																				

(裏)

資料2 作品カード(彫刻・工芸・考古資料用)

豊知県美術館所蔵作品カード				木村定三コレクション			
作品名	作者	制作年	制作地	寸法	材質	技法	備考
登録番号	品名	名	名	縦	横	材	注
鑑別番号	年()月()日	制作年	制作地	縦	横	材	注
制作年	制作地	出品年	出品地	マニフェスト等の添付			
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		
				記録	No.		

(表)

